



とうえい

令和5年6月14日
東栄小学校
学校だより第3号

ありがとう！

雨上がりに木々の緑が輝いているようです。ある時、ふと思いました。「ありがとうございます」「ありがとう」という言葉を当たり前のように言っている子どもたちが多いな、と。と同時に本校職員室でも同様に「ありがとうございます」「ありがとうございました」と、教職員同士の声が飛び交っています。「ありがとう」この言葉を言われて、嫌な気持ちになる人はきっといないでしょう。



数年前、一人の子が「ありがとうって、大切な言葉だよ」と話してくれたことがありました。その当ても素敵なことを言う子だなと思っていました。最近、特にその言葉には、いろいろな意味が込められているなど考えるようになりました。「ありがとう」の反対は、「当たり前だと思うこと」です。大事なものは、誰かにしてもらったことを当たり前と考えるのか、感謝の気持ちで受け止めるのかということです。例えば、「朝起きて、お家の人が自分のために朝ごはんを用意してくれていた」「通学団で登校する時、みんなが自分を待っていてくれた」このことを当たり前と考えれば、当たりのことですが、「朝ごはんを作ってくれてありがとう」「通学団のみんなが自分を待っていてくれてありがとう」と、感謝の気持ちで受け止めてほしいと思います。

「ありがとう」という言葉には、力があります。苦しい時や悲しい時に他者からの感謝の言葉は、自信と勇気を与えます。逆に、自分がこの言葉をかけることによって、救われる人や元気になる人がいるかもしれません。「ありがとう」という言葉は他者だけでなく、それを発した自分にも心地よい気分をもたらしてくれたり、自分を取り巻く人たちとの関係も良好になったりすることもあります。つまり、幸せの気持ちが連鎖していくのです。そう考えると、「ありがとう」の力は無限大です。

日々の学校生活の中で、小さなことでも自分のためにしてくれたことには感謝の思いを抱き、その思いを声に出しましょう。「ありがとう」がいっぱい聞こえる学校は、きっと温かく、居心地がよいと思います。今後も「ありがとう」という言葉を大切にしていって互いに感謝し合い、自分らしく生きていく温もりを感じてほしいと思います。

今日、「ありがとう」という言葉を口にしましたか？

～ちょっといい話 その3～



雨の日の昇降口。周りに迷惑がかからないように傘の水滴を落とし、傘をまとめてベルトをとめ、傘立てに入れる子が多く、感心しました。さらに、高学年の子が低学年の子に教えていたので感心が倍増しました。

(校長 井田 寿)